

5年後の自分に感謝される大学生活を

みなさんは、どのような理由で経済学部に進学しましたか？ 目標とする職業のためですか？ それとも、日々起こっている社会問題に関心があったからですか？

「勿忘初衷（初心忘るべからず）」。今の気持ちを大切にしてください。

先入観を捨てる

「数学が嫌い」。過去に出会った経済学部生の中には、経済学部へ進学したけれど基幹科目（ミクロ経済学、マクロ経済学など）は履修したくない、という人がいました。私も、大学時代それらの科目を履修しましたが、正しく理解できていたかどうか……。ただ、グラフを使って直感的に理解できるものも多かったと記憶しています。自分で「手を動かして」考える、という作業も効果的です。

「もったいない」。そんな気がしてなりません。最初から「経済学＝やたら難しい数学を使う学問」と思い込み、勉強を始める前から諦めるのは、もったいないことです。卒業後、「本当に経済学部出身？」とは言われたくないですね。「食わず嫌い」をせず、少なくとも基礎は身につけて欲しいと思います。



大石 恵

MEGUMI OISHI

経済学部講師

1973年生まれ。山口県出身。京都大学博士（経済学）。専門分野は、中国経済論・中国経済史。台北を第二の故郷、大阪を第三の故郷だと感じている。飛行機と電車、そしてマンゴーについて語りだしたら止まらない。



発想の転換

嫌いな科目は何ですか？ 誰にも嫌いな科目はあるものです。

私にも、嫌いな科目はあります。それは、英語です。高校時代からの英語嫌いは今も変わりません。

ですが、高校3年時のクラス担任の一言で、大嫌いな英語に対する意識が変わりました。ある日の二者面談でのこと。

「経済学部に進学するんでしょ。だったら、英語はずっとついて回るよ。英語だと思っただけから余計にイヤになるのよ。1つの記号だと思えばいいのよ。」

当時、「勉強についていけない→テストの成績も悪い→英語が嫌いになる」という悪循環にどっぷり浸かっていた私に、この一言はとてとても新鮮でした。

それ以来、英語への抵抗感も消えました。見たくもないほど嫌いな科目も、少し発想を変えるだけで違ってくるものです。高校までの勉強を思い出してください。嫌いな科目を避けて通ることはできませんでした。大学でも、目先のことばかりにとらわれず、あなたが発想を転換して、1つでも多くの科目を好きになってください。

おわりに

大学生活は、あなたの気持ち次第で充実した時間へと変わってゆきます。一生懸命何かに取り組んで、二度と体験できない貴重な時間を作り上げていってください。